

問 ガバメントハンター配置の目的と従来体制との役割分担をどのように定義するのか。
答 従来体制と連携した有害鳥獣の捕獲・調査、注意喚起などの業務を担い、熊出没時においては迅速な現場対応を想定している。



今冬の雪害対策について

問 今冬、市職員等による除排雪支援が行われ、市民の安心につながった。一方で来冬以降も継続するには、対象要件、受付方法等を整理し、標準手順として制度化する必要がある。今後の継続方針をどう整理するのか。
答 今冬は緊急的な支援を要すると判断し、関係機関と連携して除排雪支援を実施した。今後には備え、実施体制について整えていきたい。

問

市道の狭あい路線・除雪困難箇所では、自治会や個人が接続道路まで生活路線を確保している実態がある。困難箇所の把握と優先順位付け、負担軽減策の検討が必要ではないか。また、災害被害防止事前伐採事業の対象区間の選定、電力会社等との役割分担について伺う。

答

市の除雪は市道を基本とした交通確保を目的とし、狭隘箇所は機械・人員の確保に課題があり、対応が難しい。事前伐採は協定に基づくもので、電力会社が優先順位を付け、市が伐採を行い倒木による停電リスク軽減を図る。

質問した項目

- 今冬の雪害対策について
- 鳥獣害対策について
- 外国人旅行者の受入環境整備について



録画配信はこちらから

館花 一仁 議員 (鹿真会・公明)
 質問時間 60分

問 初めて実施した「除雪支援隊」について、市民の不安解消等の効果検証と今後の課題を伺う。
答 初の試みであったが高齢者の不安解消に繋がったと評価、関係機関から意見集約し、今回の活動で得られた効果検証と課題解決に繋げる。



ゼロ・カーボン政策の再点検と「真の環境貢献」について

質問した項目

- ゼロカーボン政策の再点検と「真の環境貢献」について
- 豪雪の教訓に学ぶ「受援マネジメント」への転換について
- 公共施設再編の前倒しと冬季コストの適正化について

問

雪国特有の性能不安や税制改正を踏まえ、無理なEV啓発や家電買い換え補助を再考し、市民に不便を強いられない真の環境貢献を求めらる。

答

EV導入は国の補助金増額等で経済性は維持されるが、市の目標は実情に合わせて300台に下方修正済み。情勢の変化に適切に、適宜計画を見直していく。

冬期コストの適正化について

問

出生数の急減により、将来の過剰供給が懸念される学校や保育所等の施設について、市民の負担軽減のためにも集約を大幅に前倒しすべきと考えるが市の見解は。

答

令和12年度までに延床面積11・6%の縮減を目指す。学校の再編の検討を令和8年度から開始し、集約または廃止が望ましいと判断した場合は、目標値にこだわらず施設の集約・廃止を進める。学校教育系施設や子育て支援施設については、望ましい教育・保育環境を確保するため適切な規模について検討していく。



録画配信はこちらから

赤坂 勲 議員 (新時代かづの)
 質問時間 45分

公共施設再編の前倒しと